

甲状腺眼症とは

甲状腺眼症は、甲状腺に関係した抗体を標的として“炎症”が起こり、眼球の周りにある脂肪や目を動かす筋肉が腫れる病気です。甲状腺機能亢進症（バセドウ病）でも低下症（橋本病）でも、甲状腺機能が正常であっても甲状腺眼症は起こります。

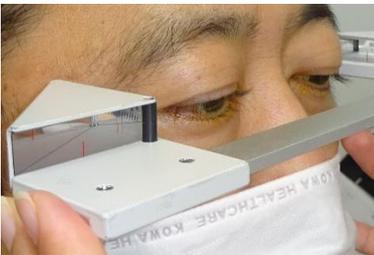
20代以上の女性に多く、まぶたの腫れや赤み、目の奥の痛み、物が二重に見える（複視）などが主な症状で、ひどくなると目が前に出てきたり（眼球突出）、視力低下を引き起こします。朝、起床時もっとも症状が悪く、日中は軽快する日内変動が特徴的です。

■ 症状

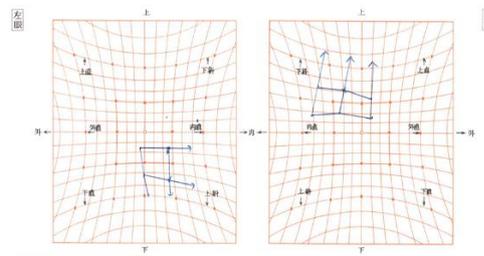
眼瞼浮腫：	まぶたが腫れて見えます
上眼瞼後退：	上まぶたと黒目の間から白目が露出し、三白眼になります
眼球突出：	目が前に出てきます
眼球運動障害：	目を動かす筋肉が炎症を起こすことで、目の動きが悪くなります
複視：	眼球運動障害のため、物が二重に見えます

■ 検査

・ Hertel 眼球突出計



・ヘス赤緑検査



・MRI 検査



Hertel 眼球突出で、眼球突出の程度がわかります。

ヘス赤緑検査を用いると、眼球運動障害（上に向きにくいことが多いです）がわかります。

MRI 検査で、眼球の周りある脂肪や目を動かす筋肉（外眼筋）や、まぶたの筋肉（上眼瞼挙筋）の腫れや炎症がないかを確認します。

採血検査で甲状腺に関係した抗体（甲状腺自己抗体）が増加していないかを確認します。

■ 治療

- ① **生活習慣改善** 甲状腺眼症を憎悪させる3大因子は、ストレス、寝不足、喫煙と言われています。たばこ、ストレスを避け、規則正しい生活を送るように心がけてください。

- ② **薬物** 目の奥の炎症を沈静化させ、甲状腺眼症の活動を抑え込むために副腎皮質ステロイドを使用します。炎症が広範囲の場合は、ステロイド大量点滴療法（パルス療法）を行います。炎症の範囲が狭く局所の場合は、炎症を起こしているまぶたや外眼筋に直接ステロイド注射を投与します。
- ③ **斜視手術/A型ボツリヌス毒素療法** 炎症が落ち着いた甲状腺眼症の複視（物が二重に見える）には、斜視手術やA型ボツリヌス毒素療法があります。目の動きが良くなるわけではありませんが、正面での複視を改善することが目的です。
- ④ **他科での治療** ステロイド治療の他に**放射線療法**があり、これは目の奥に放射線を何回かに分けて照射し、炎症を抑えます。また、慢性期における眼球突出や視力低下に対しては、目の周りを囲んでいる骨の一部を削る**眼窩減圧術**があります。

■ 当院での実績

上記の当院での斜視手術治療に関して、過去3年(2017年～2019年)の手術件数は102件と、多くの実績があります。

■ 患者さんにお伝えしたいこと

甲状腺眼症による複視は、麻痺性斜視とよばれる難治性斜視の一種で、治療が困難とされています。当科では、多くの斜視の患者さんに斜視手術を行い、正面での二重（複視）が軽減しています。ただし難治性のため複数回手術が必要な場合もあります。

■ 本学での取り組み（臨床研究）

- ・ 甲状腺眼症に伴う麻痺性斜視の治療法の確立
- 厚生省の悪性眼球突出研究治療班の「甲状腺眼症診療ガイドライン」作成委員会のメンバーとなり、現在ガイドライン作成中です。

※甲状腺眼症に関する本学からの学術論文

- ・ 岡本 真奈.甲状腺眼症の眼瞼に対する局所療法.眼科と薬剤 2019;61(10):1146-1150
- ・ 大川 隆一, 木村 亜紀子, 岡本 真奈, 三村 治, 五味 文.視神経周囲炎による視力低下をきたした甲状腺眼症の1例.臨床眼科 2018;72(12):1573-1578
- ・ 木村 亜紀子.甲状腺眼症. あたらしい眼科 2017 ; 59(4):349-354